

C-1 : プレアワード

開催日時・会場 9月19日（水曜日） 15:50-17:20 403(4階)

地域に集積する知から生まれる金の卵

本セッションでは、まずキーワード「地域の連携」で集合する研究機関や研究者による分野を超えた融合研究を促進させるための具体例を紹介する。次に、地域に集積する「知」から「金の卵」を見いだすための地道な努力が、将来、さまざまな形で地域へ還元するための方策を議論する。

筑波大学からは、研究連携の萌芽期にフォーカスし、これまでつくば地域で行われてきた事例と現在進行している筑波大学URA研究戦略推進室で取組んでいる異分野研究集会・つくば地域の研究支援者のネットワーク構築の事例などを紹介する。

大分大学からは、ニーズ課題解決型授業による地域ニーズをベースにした各専門家と若い世代のアイデア「融合知」を紹介する。特に、その「融合知」から発した資金獲得や産学連携の事例と地域企業との人材を育成する認証制度「おおいた共創士」の現況を報告する。

北陸先端科学技術大学院大学からは、地域産業界と大学のニーズ・シーズを収集し、それらの連携によって新製品・新事業の卵を多数同時に創出する地域連動型システム「Matching Hub」の事例を紹介する。

最後に、これらの事例がより一層地域に還元されるための改善点や「金」との連携による出口を見据えたアイデア・事例をフロアから募る。また、地域連携の中から「金の卵」を持続的に産みだしていくための方策、すなわちどのような「知」を集積して研究支援マネジメント人材がどのように関与するのかを議論する。

オーガナイザー

馬場 忠 : 筑波大学・生命環境系

URA研究戦略推進室・教授・学長特別補佐・URA研究戦略推進室長



1983年筑波大学院農学研究科博士課程修了(農学博士)、日本大学松戸歯学部助手、筑波大学応用生物化学系講師、助教授を経て1998年より教授(生命環境系)。途中、厚生省国立予防衛生研究所協力研究員、オクラホマ医学研究所研究員、ペンシルバニア大学医学部客員教授、韓国インジェ大学特別顧問教授。筑波大学研究戦略室長、学長補佐などを歴任し、現在は学長特別補佐とURA研究戦略推進室長を兼務。

講演者



加藤 英之：
筑波大学・URA研究戦略推進室・チーフ リサーチ・アドミニストレーター

1992: 理学博士(首都大学) 素粒子論
学振研究員、理化学研究所 BSI、ニューヨーク大学 脳神経センター 研究員を経て、2007年理化学研究所 BSI-トヨタ 連携センター 研究室長
2012より筑波大学URA研究戦略推進室 URA職



安部 恵祐：
大分大学・全学研究推進機構・助教/URA

2008年 熊本大学 自然科学研究科修了。2008年より熊本大学にてポスドクで医工連携の融合研究を推進。2014年に岐阜大学でURAとなり、2015年より大分大学で活動。外部資金獲得の採択とCOC+事業の推進をしている。また、IR委員も行き、研究戦略の企画・運営を行う。また、現在、産学官金連携教員として、MOT・ベンチャー・オープンイノベーションに関する授業を4科目担当。さらに、教育ポートフォリオ開発研究も行っている。



中田 泰子：
北陸先端科学技術大学院大学・産学官連携本部産学官連携推進センター・
産学官連携本部長補佐/主任URA

2006年 豊橋技術科学大学大学院物質化学専攻修了、企業経験を経て、2009年から北陸先端科学技術大学院大学。
北陸地域の活性化を目的とするMatching HUBというイベントを金沢で開催しており、企画・運営全般を担当している。昨年はBusiness Idea & Plan Competition (M-BIP)を企画し、Matching HUBを学生を巻き込んだ地方創生/地域活性化への取り組みとして発展させた。本年度からは産学官連携本部の本部長補佐も担当している。